



野毛の街づくりを共に進めて来た仲間たちと



大道芸での街づくりを目指し私も自ら道化師に扮しました（右側）



街づくり会は街から東横線がなくなっても生き残れるよう横浜市、東急と必死に交渉、地区振興策を盛り込んだ協定に調印。調印式にて（後段右端が私）

私の政治の原点は野毛です。

衆議院議員 松本 純

私の政治の原点は野毛です。40年ほど前になりますが、私が地元町内会の役員だったときに桜木町駅の移転問題が起こりました。野毛が駅から遠くなることは、野毛の商人にとっては死活問題です。

当時、野毛は長い沈滞の中にあっただけでもあり、先輩たちが「街づくり会」を立ち上げました。若手だった私は事務局を引き受けましたが、間もなく東横線桜木町―横浜間の廃線問題が起こりました。

街づくり会は街から東横線がなくなっても生き残れるよう横浜市、東急と必死に交渉し、地区振興策を盛り込んだ協定に調印しました。今に続く「野毛の街づくり」はここから始まりました。

協定の調印式には私も列席しました。そのとき立会人として調印を見届けてくださったのが、建設相・通産相を歴任した故小此木彦三郎先生でした。菅総理は小此木先生の秘書を長く務め、このときにはすでに横浜市議として辣腕をふるわれていました。ここにも深い因縁を感じます。

さて、こうした経験を積む中で、私は街だけでは解決しない多くの問題に直面しました。街に活気を取り戻すためには行政の協力が欠かせない。市議会で野毛の現状を訴えて解決の道を探りたい。そう思うようになって市議員選挙に立候補しました。

市議として三期務めるうち、今度は野毛のため、横浜のために働くには国会の場に立つことが必要ではないかと考えるようになりました。地元の活性化はもとより、私がライフワークとしている健康・福祉の増進のためには、私の考えを国の政策に反映させなければならないからです。

都市のインフラ整備は国の協力なくしては実現しません。例えば、横浜ベイブリッジは横浜市の構想としてスタートし、国の事業として完成しました。野毛の隣町、北仲地区に新市庁舎が完成しました。新市庁舎と野毛を結ぶ「さくらみらい橋」もできました。ともに国の助成もあって達成された事業です。

皆さまのおかげで、安倍内閣では国務大臣（国家公安委員長など）として入閣することができました。私は野毛のために働くことが横浜の発展につながる、横浜のための努力が国の繁栄に寄与する、と信じています。私は生まれ育ったのをはじめ、すべての出発点である野毛を決して忘れません。これからも国、横浜、野毛のために働きます。皆さんと一緒に新時代の野毛、真に豊かな暮らしと生業を築き上げてまいります。

松本 純
おすすめの1冊です



『横浜野毛〜闇市から大道芸のまちへ』
令和3年3月26日発行 定価330円

野毛地区街づくり会編
発行 野毛地区街づくり会、野毛地区振興事業協同組合 問合せ 電話 045-241-4500

終戦直後の焼け跡の中、一大「闇市」が形成された野毛は、以来小さな呑み屋が軒を連ねる飲食店街に発展。しかし横浜21世紀の都市整備の中、まちは開発から取り残される事態へ。そこでまちが始めたまちづくりは「大道芸」に市民権を与えるという画期的なやり方だった。野毛という小さな街が大都市横浜の中で生き残りをかけた戦後史を描く一冊。